

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみ深く、御父のように」  
小教区今年度のテーマ・・・「届けよう、神のいつくしみを共に」



いつくしみの特別聖年における具体的な取組み

主任司祭 遠山満

先月の拡大信者会の中で、私達の小教区の特別聖年におけるスローガンが「届けよう神のいつくしみを共に」と言うことに決まりました。また、先日行われた7月の拡大信者会では、このスローガンを具体的に生きる為の取組みについて話し合い、お互いに挨拶を交わそう、等の意見が出されました。

私が、今月の拡大信者会の後、考えた事は、司教様が1月に出された指針の中の一つを、私達の小教区の具体的な取組みにしても良いのではないかと言うことでした。それは、具体的な取組みの最後の項で書かれていた、次の事です。「共同体内部の非難、中傷、悪口、裁きなどの撲滅に心掛け、その為祈り続ける」ことです。何故、私がこの取組みを大切に感じたかと申しますと、私達が、他の人に神のいつくしみを届ける前に、あるいは、他の人に挨拶をする前に、私達の心の中から、他の人に対する非難や裁きなどの心を取り除いておかなければ、私達は、ある意味、心から相手に、神のいつくしみを届けることはできないのではないかと思います。

ところで、先月行われた司祭研修会の中で、指導をされた神父様が、聖フィリッポ・ネリが行った霊的指導について教えて下さいました。ある日、聖人の所へ告解に来た人が、他人の悪口を言ったことの罪の告白をしたそうです。それに対して聖人は、「償いとして、鶏の羽をむしりながら街中を歩きなさい」と言ったそうです。鶏の羽をむしることは、自分たちで鶏を解体していた当時、日常茶飯事な事だったのでしょう。この人は、鶏の羽をむしりながら街中を歩き回った後、聖人の元へ戻り、それを報告しました。するとどうでしょう。次に聖人は、「むしって撒いた鶏の羽を、今度は拾い集めなさい」と言ったそうです。実に、これは不可能なことです。何故なら、鶏の羽は風に吹かれて、辺り一面に広がっていたに違いないからです。聖人は、この償いを通して、悪口や非難・中傷などが、時として取り返しのつかない事になることを教えようとしたのだと思います。

私達も、お互いの中で、また共同体の中で、神のいつくしみをやり取りする、そのコミュニケーションを妨げている要因があるならば、それを取り除いていくことができますよう皆で祈りましょう。

## カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時：2016年7月3日（日）11:30～12:40

開催場所：信徒会館

司会：川原 書記：川原

始めの祈り—熊本地震被災者のための祈り⑤

### 1. 2016年度の小教区年間テーマ「届けよう、神のいつくしみを共に」についての、小教区としての具体的な取り組みについて

役員会から、小教区の経済的に困難な家庭、ひとり暮らしで孤独な生活をしている方等への支援窓口の設置の提案があったが、種々難しい問題もあり、継続課題となった。ただ、お互いに声を掛け合う等の心配りがまず必要ではないかとの意見が出され、以前取り組みのあった「ほほえみたい」の復活の要望もあった。

### 2. 松尾太神学生の助祭叙階式について

現在霊的花束に取り組んでいるが、お祝いも準備したい。個人的にされる方とは別に、信者会として献金の呼びかけを今週から取組みを始めた。みなさんからの献金を合わせて信者会として十万円を予定することに決定した。

### 3. 神学院祭について

11/3に予定されている神学院祭について、実行委員会から出店についてのアンケートが届き報告期限の関係で役員会で検討の結果、笹丘教会は去年と同様に「カレー」と「綿菓子」の準備が出来る旨報告した。ただし、実行委員会からの要望もありカレーの食数を200食とした。追って決定されれば連絡があるので協力をお願いしたい。

### 4. 駐車場ブロック工事について

桜の木がある法面の最下段のブロックが老朽化もあり穴があいたり、ひび割れがあり、幼稚園児等の安全のため業者から見積もりを取り、工事を計画する。

### 5. 植木の伐採について

信者会館の幼稚園側にある「くろがねもち」と「杉の木」が大きくなり過ぎて、幼稚園側の法面のブロックを壊すおそれがあるので、地上から2～3mを残し一旦伐採することになった。廃材の処分には運搬等の協力をお願いしたい。作業は幼稚園の夏休み中に実施予定。

### 6. 教区借入金返済について

先月の拡大信者会で提案のあった繰り上げ返済について教区事務所に紹介の結果、繰り上げ返済は可能との回答であったので、財務委員会で検討することになった。

終わりの祈り—ペトロ岐部司祭と187殉教者の列聖を求める祈り

## ✿✿✿ 信仰のルーツ ✿✿✿



私がキリスト教に出会ったのは幼稚園でした。山口県宇部市の小百合幼稚園というところでした。朝の祈りの祈りは、少し長いフレーズと3つの短いフレーズがあるなと思いながらお祈りをしていました。年中の頃、私がおとなしかったためか、担任の先生は何かと役を与えてくださり、その行動を見守ってくださっていた、と言う思い出があります。年長になると先生は変わってしまいましたが、ちょうど園舎が建て変わり新しい園舎で過ごせることで、寂しさが消されていたように思います。

小学校1年二学期終わり父の転勤で福岡に引っ越すことになりました。その時、母に連れられて、年中の時の先生に挨拶に行きました。先生はじっと私を見つめて、ご自分の首に下げていらっしゃる御メダイを私の首にそのままかけて下さいました。先生の大事なものを下さったのだ、と子ども心に「何かを与えられた」気持ちでした。しかし、小学校4年の頃だったか、その頂いた大事な御メダイをうっかり人にあげてしまったのです。メダイと鎖を分解してしまって、遊び物に紛れ込んでいたためです。後悔しましたがもう取り返しはしませんでした。

その後は小学校5年の時に友人から教会学校に誘われて何度か通ったことはありましたが、流行りのようなもので意味もなくそれは終わりました。

結婚後も両親が心の支えでした。このままでは、両親が死んでしまったら私の心の支えがなくなってしまう。親に代わる心の支えが欲しい。親は私をキリスト教の幼稚園入れたのだからキリスト教には反対しないだろう。しかも自宅の真ん前が教会だ！また、この時期にニューヨークで前代未聞のテロが起こりました。今こそ世界平和を！！こんな気持ちから教会通いが始まりました。ちょうど、友人もいたので抵抗なく毎日曜日笹丘教会のミサに参加しました。ドワイヤ神父様は寛容でした。神父様から勉強しませんか？とお声をかけてくださり、同じ住居の石橋さんからお勉強させていただきました。とにかく入信したい、そんな気持ちでした。必要最低限の勉強で、2002年ご降誕の日、受洗の運びとなりました。また、一年も経たない内に堅信式も受けさせていただきました。

最初は代母の石橋さんに連れられて何かと行事に参加していましたが、そのうち仕事を始めて教会から足が遠のきました。受洗を早まった、組織に入ったら役を引き受けなければいけない、煩わしい、信者でも意見が割れている、本当に神の存在などあるのか、など、不満ばかりが頭をよぎり、一度引き受けた役員をすっばかしたりもしました。自分の思うまま、本能のまま行動していました。自分の子どもはこんな組織に入れたくない、このまま教会を離れよう、そんなことばかり思っていた時期がありました。そんな私を代母の石橋さんは、いいのよいいのよとずっと見守ってくださっていました。そんなある日、バス停で偶然牧山さんと出会い「明日教会で劇をしますから見に来ませんか？」と声をかけられました。拝見したその劇はあまりに素晴らしく感動のあまり泣きました。これは、私が教会を見直すきっかけにもなりました。

4年前、教会の広報の日の記念講演会に参加しました。その時に、受付に立っていらっしゃる辛嶋さんから「広報委員しませんか？」と声をかけられました。特に親しいわけでもないのになんで私に声をかけたんだろう？？メンバーを伺って、気楽にできるかもと思って引き受けました。大嫌であった広報も、それぞれの持ち味を生かして出来上がっていくので、面白くなりました。記事を書くために色々調べたり、今まで参加したことのない行事にも参加するようになりました。また自分自身、本能の欲が減っていくに従って信仰が深まっていくことに気づきます。自分の子どももキリスト教信者になって欲しいと思うようにもなりました。幼稚園の先生から頂いた大切なものがたとえ手元になくとも、ずっと見守ってくれていたんだ。振り返ってつくづく思います。その時の先生に信者になったと報告したいのですが・・・旧姓藤村弘子、結婚されて確か村田になられたと記憶しています。導きに感動と感謝を感じています。(J.N)

## 編集後記

6月始め、母と「北海道花めぐりの旅」というツアーに参加して、最近とても人気という北海道ガーデン街道(旭川—富良野—十勝)沿いのガーデンをまわって美しい花々や景色を楽しんだ。北海道はとにかく広いので、花畑やガーデンも規模が大きい!「十勝ヒルズ」や「上野ファーム」、「ピンクの絨毯」という表現がぴったりの広大な芝桜公園、見渡す限りの菜の花畑、4.3キロ続く白樺並木などなど…。

そのツアーの最後に訪れたのが帯広の「紫竹ガーデン」。90歳になる紫竹昭葉おばあちゃんが、ご主人を亡くされた60代から「子供の頃遊んだお花畑を作る」という夢を抱いてゼロからコツコツと作り上げた個人のガーデンだそう。

今や18000坪の広さに2500種の植物が咲き乱れる、国内はおろか海外からも観光客が押し寄せるスポットとなっている。

紫竹おばあちゃんが夢に向かって歩き出した年齢が今の私だ!と考えると、「もうトシだから…」という言い訳は言えないなあ〜、と思ったことだった。 (F. K)